



Overseas Fishery Cooperation Foundation of Japan

評価報告書

パプアニューギニア独立国
 — 2024 年度 水産技術普及推進事業 —
 (終了時評価 2025 年 4 月)

事業概要

国名	パプアニューギニア独立国
プロジェクト名	定置網漁業に関する試験調査プロジェクト (水産技術普及推進事業)
実施期間	2013 年 11 月 11 日 (覚書調印日) ~ 2025 年 3 月 31 日 (評価対象期間: 2024 年 4 月 1 日 ~ 2025 年 3 月 31 日)
相手国政府覚書署名 省庁名及び実施機関	覚書署名省庁: 水産公社 (NFA: National Fisheries Authority) 実施機関: 水産公社

プロジェクト実施の経緯と背景



NFA が作成した事業計画 (NFA Corporate Plan 2021-2025) では、沿岸漁業の開発による経済強化、市場へのアクセスや輸送手段の確保等を通じた小規模漁業の持続的な発展を重要施策の一つとしている。

これに基づき、NFA は定置網漁業を沿岸小規模漁業の発展に有効と位置付け、東セピック州ウェワクに小型定置網を設置し、試験操業を実施するとともに、2013 年 6 月 25 日付書簡により、その持続的運営や普及に必要な技術面での支援を公益財団法人海外漁業協力財団 (以下「財団」という。) に要請した。

財団は、パプアニューギニア独立国 (以下「PNG」という。) と我が国との漁業分野における良好な関係を確保する観点からこの要請を受け入れ、2013 年 11 月に覚書を締結し、定置網漁業における基礎調査プロジェクトを開始した。当該プロジェクトにより定置網を導入した 8 つのプロジェクトサイトで定置網の導入

時期が異なるため、サイトにより対象漁業者の技術レベルに差があるものの、人材育成は着実に進んでいる。

NFA は初期投資を抑え維持・管理を容易にする小型の網、混獲種への影響が少ない柵網や猪口網など、各サイトの潮流・海底地形・市場へのアクセス状況等に応じた形態・規模の定置網の導入を図ることにより、PNG 沿岸全域への定置網漁業の普及を模索しており、本プロジェクトの継続を要請した。財団は PNG 政府の要請に応えるため、2024 年 4 月 1 日付で、更に 1 年間プロジェクトを延長した。

目標・成果・活動内容等

上位目標	NFA の沿岸漁業代替漁具導入の取り組みが進む
プロジェクト目標	定置網の持続的運営や普及に必要な技術の確立と知見の収集
成 果	<p>①プロジェクト関係者会議の実施</p> <p>各プロジェクトサイトにおいて、定置網漁業関係者全員の参加の下、運営方法の見直し、漁獲データ分析及びフィードバックを共有するための会議を開催する。これにより、各サイトの操業・運営体制の見直しが図られ、効果的な定置網操業・運営が可能となる。</p> <p>②TOT (Training of Trainers : 研修指導者研修) の実施</p> <p>NFA が 2025 年度に傘下のニューアイルランド州ケビアン国立水産訓練校 (以下「NFC」という。) において、国内漁業者を対象とした定置網コース (柵網) を開講することを予定しているため、コース開講前の 2024 年度の本プロジェクトで、指導役の NFC 講師や関係者 (NFA 職員等) を対象とした講師向けの研修を実施する。TOT ではプロジェクトが展開している 2 種類の網 (柵網・猪口網) のミニチュア (モデル網) を製作して構造の理解を深める他、海上調査方法や機材メンテナンス等についても学ぶ。これにより、NFC 講師や関係者の知識・理解が深まり、彼らが指導役となって定置網コースを円滑に進めることが可能となる。</p> <p>③巡回指導</p> <p>3 州・8 基のプロジェクトサイトを専門家が訪れ、機材・網の設置・操業の状況を確認し、必要に応じて指導を行う。このことにより、プロジェクトサイト毎に生じている問題の発見、解決が図られる。</p>
活 動	<p>①プロジェクト関係者会議の開催</p> <p>ウェワク、ラエ及びアロタウにおける、NFA 及び州水産局カウンターパート、各ワーキンググループメンバー並びにコミュニティ代</p>

	<p>表の参加を伴う、運営方法の見直し、漁獲データ分析及びフィードバックを共有するための会議の開催</p> <p>②TOT の実施 NFC で実施する予定の定置網コースを担当する講師や関係者に対する TOT の実施</p> <p>③巡回指導 NFC で実施する予定の定置網コースを担当する講師や関係者に対する TOT の実施</p>
<p style="text-align: center;">投 入</p>	<p>財団側</p> <p>1) 専門家 計画</p> <p>第 1 回実施 漁労専門家 1 名 2024 年 4 月 25 日～2024 年 5 月 17 日 (23 日間)</p> <p>第 2 回実施 漁労専門家 2 名 2024 年 10 月下旬～11 月下旬 (30 日間)</p> <p>第 3 回実施 漁労専門家 2 名 2024 年 1 月中旬～2 月中旬 (30 日間)</p> <p>実績</p> <p>第 1 回実施 漁労専門家 1 名 2024 年 4 月 25 日～2024 年 5 月 17 日 (23 日間)</p> <p>第 2 回実施 漁労専門家 2 名 2024 年 11 月 2 日～2024 年 11 月 29 日 (28 日間)</p> <p>第 3 回実施 漁労専門家 1 名 2025 年 1 月 6 日～2025 年 1 月 24 日 (19 日間)</p> <p>駐在アドバイザー1 名 2025 年 1 月 15 日～2025 年 1 月 23 日 (9 日間)</p> <p>延日数 計画 143 人日 実績 107 人日 (計画対比 : 74.8%)</p>

	<p>2) 主な資機材 柵網資機材一式、船外機 3 台、船外機修理パーツ</p> <p>相手国側</p> <p>1) カウンターパート NFA 漁業管理部長、漁業管理課長、NFC 講師 3 名</p> <p>2) プロジェクト関連予算、土地、施設等 資機材等の保管倉庫の提供、定置網操業に必要な海域や土地の使用許可、本邦購送の供与資機材に係る通関費用、国内輸送費及び現地調査供与資機材の調達の際に発生する付加価値税の負担。</p>
--	--

評 価 事 項

◆ 妥 当 性

1. 対象国政府の水産振興政策との整合性

本プロジェクトは、PNG 政府の「NFA 事業計画（NFA Corporate Plan）2021-2025」に基づく沿岸漁業の開発による経済強化等の政策を支援するものであり、妥当と認められる。

2. 協力ニーズ（対象国、対象地域）との整合性

PNG 政府は沿岸漁業の発展を重要な施策の一つとしており、特に定置網漁業を沿岸小規模漁業の発展に有効と位置付けて全国（14 州 1 区）への普及を計画している。以上のことから、本プロジェクトは対象国・地域のニーズとの整合性が高いと判断される。

3. 環境に対する配慮はなされていたか

本プロジェクトは小型定置網の試験操業を進めるものであり、周辺環境への影響は極めて小さい。また、定置網は岸壁から目視可能な場所に設置されていることから、万一の流出等の事故にも速やかに対処できる可能性が高い。加えて、保護対象である海亀に配慮し、混獲回避装置を改良し定置網に設置している。

4. 水産資源に対する配慮はなされていたか

本プロジェクトは、小型定置網に係る操業・運営管理に関する助言、技術指導、漁獲データの収集・解析方法及び関連技術の移転を行うものである。定置網は、魚群の来遊を待つ受動的な漁業で、その捕獲割合は入網する魚の 2 割程度といわれる資源にやさしい漁法であり、さらに本プロジェクトで使用する定置網は小型のものであることから、水産資源に対する負荷は限定的である。

また、収集されたデータは NFA が整理しており、今後、沿岸域に来遊し漁獲される魚類等の資源管理への活用が期待される。

5. その他（プロジェクト関連予算、土地、施設等受け入れ態勢は決められたとおりに実行されたか等）

特になし。

◆ 効率性

1. 事業費及び実施期間

プロジェクト活動項目は概ね計画どおり実施された。ただし、一部、先方実施機関都合によりカウンターパートが同行できない期間が生じ、専門家の派遣期間の調整を行ったことにより、専門家投入延日数実績が計画を下回った。

2. 資機材、施設、専門家はタイミングよく投入され、期待された機能、能力を発揮していたか

本プロジェクトの活動計画策定に先立ち、既存の定置網の操業状況を確認するとともに、NFA・NFC カウンターパート、漁業者グループ、州政府水産局などと打合せを行い、現地の事情や要望を十分調査した。このため、資機材の供与、専門家の派遣は、NFA 側の要望及びプロジェクトの進捗に沿って適切に実施された。

一方で、資機材の PNG 到着後の国内輸送については、NFA 側の手続きが遅れたため、プロジェクトサイトへの到着が当初想定より遅れた。

3. 移転技術はカウンターパートの習得水準に適合していたか

過去 10 年間のプロジェクト実施の実績により、専門家はカウンターパート及び現場で技術的なリーダーシップを取るテクニカルフィッシャーの技術レベルを熟知しており、適切なレベルの技術移転を実施した。

4. 状況の変化、教訓・提言等に応じて実施計画、活動項目は、適宜見直されていたか

専門家が現地入りする前からカウンターパートとメールなどでの情報共有を密に行い、各サイトの状況や問題点の共有を図った。専門家の出張時には、現地で関係者会議を開催し、プロジェクトの進捗状況や今後の活動計画の確認を行っており、現地の状況変化に合わせて柔軟にプロジェクトが実施された。

5. その他（プロジェクトの効率性に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

土地問題をめぐる紛争のため操業を停止しているラエのラブミティ（3号基）とラブタレ（4号基）については、操業再開に向けて検討を進めていたが、依然として両コミュニティ間の緊張度が高いため、両サイトにおけるプロジェクト活動が難しい状態である。NFA は両サイトから定置網資機材を引き上げ、他のサイトで活用する方針である。

◆ 有効性

1. プロジェクト目標の達成度

① プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標：定置網の持続的運営や普及に必要な技術の確立と知見収集

PNG 政府は、同国で初の試みである定置網の普及・定着について、これまでのプロジェクトを通してその知見を収集・蓄積している。

定置網の修理・修復作業や、問題が起きた際の解決方法など、専門家の技術指導の下で NFA により漁業者グループを率いた運営をしていく上では、十分な知見の収集及び技術移転が行われた。また NFC で新たに開講する定置網コースにおいてプロジェクトでこれまでに得られた定置網漁業に必要な知見・技術の移転・普及を図るという取り組みについては、今年度の活動によって促進された。

一方で、下記②のとおり、一部プロジェクトサイトでは活動が停止している。このことからプロジェクトの持続的運営については今後も NFA や州水産局との連携、コミュニティミーティング開催への働きかけなどの取り組みが必要である。

② その他（プロジェクト目標の達成度と外部要因との関係等）

プロジェクトの対象定置網サイト 8 か所のうち、2 か所は、外部要因による治安の悪化のため、撤収の方向となっているが、未だに NFA による撤収作業が未着手となっている。

また他のプロジェクトサイトにおいても、コミュニティ間のトラブルや会計不備により活動が停止することが散発的に発生している。

2. プロジェクト活動項目及び期待された成果の達成度

① プロジェクト関係者会議の実施

ウェワク、ラエ、アロタウにおいて、NFA 及び州水産局カウンターパートと各ワーキンググループメンバー及びコミュニティ代表の参加の下、運営方法の見直し、漁獲データ分析及びフィードバックを共有するための会議を開催した。これにより、各サイトの操業・運営体制の見直しが図られ、効果的な定置網操業・運営につながった。

ラエのラブミティ（3号基）とラブタレ（4号基）のコミュニティに対しては、今回2年半ぶりに訪問することができ、コミュニティメンバーへの聞き取り、敷設した定置網の状態やコミュニティが保管している漁具資機材の調査を実施した。

② TOT の実施

第2回活動実施において、2025年度開講予定の定置網コースに携わる NFC 講師や関係者に対して研修を実施した。当初の計画どおり、網の構造や作成についての指導や定置網操業・運営に関係する講義を実施した。一部研修について、本番を想定して NFC 講師が準備・発表を行う模擬講義の試みも実施した。

第3回活動で追加講義を実施する予定であったが、NFA 側の手続きの遅れにより一部

資機材の NFC 到着が間に合わず、計画を変更した。なお、この補講は後日 NFA 職員によって実施された。

③ 巡回指導

第 1 回・3 回活動実施において、3 州 8 基のプロジェクトサイトを専門家が NFA・NFC 職員と共に訪問し、機材・網の設置・操業を確認し、必要に応じて指導を行った。第 3 回活動実施においては、上記①のとおり、今まで接触できなかったラブミティ・ラブタレコミュニティに 2 年半ぶりに立ち入り、資機材の状況について確認ができたことは大きな成果である。加えて、第 3 回活動では在 PNG アドバイザーがアロタウでの巡回指導に参加して、漁獲データの収集・解析の現場を視察したことから、プロジェクトの問題点をアドバイザーとも共有できた。

インパクト

1. プロジェクト上位目標の達成に対し、プロジェクト目標の達成の効果はどの程度見込まれるか

これまでの知見を取りまとめた基礎編トレーニング・マニュアル I 及びトレーニング・マニュアル II “小型定置網の普及のための実践編” が完成した。また、TOT の実施等 NFC での定置網コースの開講準備、プロジェクト目標の達成に向けての多くの活動を進め、カウンターパートと協力しながら成果を出した。

今後進める NFC における定置網コースの実施により、定置網漁業技術が本プロジェクトサイト以外にも広がり、NFA が定置網資材を提供することにより、定置網の国内普及が進み、上位目標である「沿岸漁業代替漁具導入の取組みが進む」の達成が期待される。

2. プロジェクトは相手国・対象地域の政策形成、社会・経済等でどのような直接的・間接的な効果または負の影響が見込まれるか

経済発展とともに増加中の PNG 地方都市部の住民に、十分な量の水産物を提供するためには、伝統的な漁法だけでは不十分である。また、地方の漁村部では収入機会が限定されており、都市部・地方間で経済構造や生活水準の格差が拡大している。

このような状況の下、定置網漁業の普及及び定着は地方における水産物供給の増大に資するとともに、地方漁業コミュニティの収入拡大の機会創出も期待できる。

また、定置網漁業を通じて、漁業コミュニティの若年層に雇用機会を与えることの社会的・経済的な意義はきわめて大きい。更に、定置網漁業関係者が合意したマネジメントガイドラインに基づき、売上金の一部をコミュニティに寄付する仕組みもあり、コミュニティ全体の発展にも寄与することが期待できる。

3. その他（ターゲットグループに対するインパクトや、プロジェクトの計画当初予見できなかった効果または負の影響が見込まれるか等）

コミュニティでは伝統的に、若者はコミュニティリーダー／シニアに自分の意見を言わない風習があるが、当該プロジェクトに関わる若者は協議の場で積極的に自分の意見を述べるようになり、活発な意見交換がなされるようになった。

◆ 持続性

1. プロジェクト終了後もカウンターパート及び供与された資機材は有効に活用されるか

NFA は、定置網漁業を沿岸漁業の振興に有効と位置付け、国内 14 州 1 区への定置網の普及を計画している。プロジェクト開始時から参加している漁業者から選ばれたテクニカルフィシャーと呼ばれる技術者のうち、リーダーシップを取れる者は、他のサイトにおける定置網の製作・設置の際に、専門家と協働する指導者として派遣されており、今後の定置網の普及を担う人材として期待される。

財団が供与した補修用の網や関連する資機材は、NFA の主要機材とともに、漁業者グループが主体的に維持・管理しており、プロジェクト終了後も有効に活用される見込みである。

2. プロジェクト終了後も効果は持続される見込みか

プロジェクト終了後も、マネジメント技術を習得した NFA カウンターパート、操業技術を指導する NFC 講師及び現場で技術的なリーダーシップを取るテクニカルフィシャーが継続して取組むことから、プロジェクトの効果は持続される見込みである。

また、ミルンベイ州アロタウの定置網（6 号基）は、州水産局局長・担当者のリーダーシップの下、関係者が協力し、本邦研修を受けた漁業者が中心となり熱心に操業に取り組むという好循環が維持されている。このワーキンググループは漁獲物の丁寧な下処理や女性の積極的な操業への参加等他にも優秀な点が認められる。これを Good Practice（好事例）として、他地域での定置網の普及の際に活用することが期待される。

3. その他（持続性に影響を与えると考えられる貢献・阻害要因等）

定置網漁業を開始するには、初期投資として定置網資材が必要となる。NFA や州水産局が必要資材を提供するための予算措置を設けること、また、既存船の改造や現地造船所での建造により作業用漁船が容易かつ安価に確保できることが、沿岸漁業者への定置網の普及に不可欠である。

以上